

1. 評価

- ✓ イエスと同じくらいノーとすることである
- ✓ 企業ごとに特有のものである
- ✓ 企業目標を支える必要がある

2. 優先順位付け

- ✓ スクリーニングと優先順位付けを行う無料オンラインツール
- ✓ 包括的な水リスク・アセスメントの結果
- ✓ EU サステナビリティレポート基準、TNFD、SBTNなど主要な枠組みやイニシアティブと連携し、
- ✓ 事業戦略の策定に役立つ

3. 決定・定義づけ

- ✓ 社内外の状況を鑑みて、対応を決定する

4. 設定

- ✓ (地域の)水の状況を行動に反映させるべき
- ✓ 水目標は戦略から導かれるべき
- ✓ 水目標は、影響度の高いスポットに焦点を当てるべき

おわりに



- 水戦略は、企業にとっても自然にとっても価値のあるものを達成するものであるべき。
- 水戦略は、何ができるのかから考えるフェーズから、何をしなければならないのか、のフェーズに移ってきた。自らのビジネスにとって何をしてゆくのか戦略を立てる際に重要なもの。
- 水戦略を策定するうえで、どのサプライヤー、どのコモディティに時間を割いてゆくのか、といった絞り込みが重要である。やる、やらない、という考え方を整理してゆく必要がある。
- 水リスクは地域特有のものであるため、個社ごとにアセスメントが必要となり、それを踏まえた水戦略は企業目標を支えるものとして位置付ける必要がある。
- ウォーター・リスク・フィルターは、スクリーニングと優先順位付けを行う無料オンラインツールで、TNFD、SBTNなど主要な枠組みやイニシアティブと連携し、事業戦略の策定をサポートするもの。
- 日本経済はその多くを輸入に頼っていることを考え、企業が水リスク把握を進める際には海外（サプライチェーン）に水リスクがある可能性も考慮に入れて検討を進める必要がある。